

平成二十七年 国語 (文学科) 日本語日本文学専攻 (解答例)

一 (一〇〇点)

問一 ① あ ② した ③ 特徴 ④ 対処 ⑤ 経緯

問二 a 主題 (題材、などでも可) b 基盤 (基礎、などでも可) c 観点 (視点、などでも可)

問三 ア やつと イ 特に (なかでも、などでも可) ウ 反対を表明した (反論した、などでも可) エ 逆に (反対に、などでも可) オ わざわざ (別に、特に、などでも可)

問四 学校唱歌 (国家主義的な学校唱歌、でも可)

問五 郷愁というモチーフ (郷愁、でも可)

問六 子供が金魚を殺したことは母親に対する愛情表現であり、それは子供のありのままの感情であって、悪いことでも醜いことでもない。

問七 (1) 「子供に還る」ことにより、子どものありのままの心を直接表現しようとする主義 (2) (最初) 子供の感じ (最後) 出来るのか

問八 子供だけに特別な認識があるのではなく、そもそも人間自身には人間の本質が含まれており、創作者自身が人間の本質を正しくつかめばそれでよいから。

問九 『邪宗門』、『思ひ出』など

二 (六〇点)

問一 ① たいそう (盛大に、ひどく、とても、すばらしく、などでも可) ② 大騒ぎする

③ (不吉なほど) すばらしい

④ 不安に (心配に、心細く、気がかりで、などでも可) ⑤ 互いに

問二 あダ行下二段動詞「出づ」の連用形活用語尾

い 打ち消しの接続助詞

う ダ行下二段動詞「まかづ」の未然形活用語尾

問三 形容詞「悪し」連用形 完了の助動詞「ぬ」終止形 推量の助動詞「べし」終止形

悪しかり

ぬ

べし

問四 ある (待る、舞ふ、ありける、などでも可。連体形になっていること)

問五 舞をむだにしてしまうのだろうか、どうなるだろうどうなるだろう。

問六 道綱の射た矢のおかげで、負けそうだった試合が引き分けになり、練習していた舞も立派に舞って天皇から御衣をたまわったこと。

(「ありつるやう」) = 「あった様子、試合の様子」なので、道綱が勝ったこと、舞を

舞ったこと、天皇から御衣をたまわったことの三つが書けていることが必要。)

三 (四〇点)

問一 ざる(ず、でも可) すなはち(すなわち)

問二 心のない水・木・石までも、すべて感動させることができる。

問三 又(た) 況(ん) や血氣有る者に於いてをや。

問四 君主が国民を説得したり国を治めていくとき、お母さんが赤ちゃんに接するときのよう
うにまごころを込めれば、国民も必ず素直に信頼してくれる。